

2018～ 離島や山間部への荷物配送、被災状況調査等

2020年代前半～

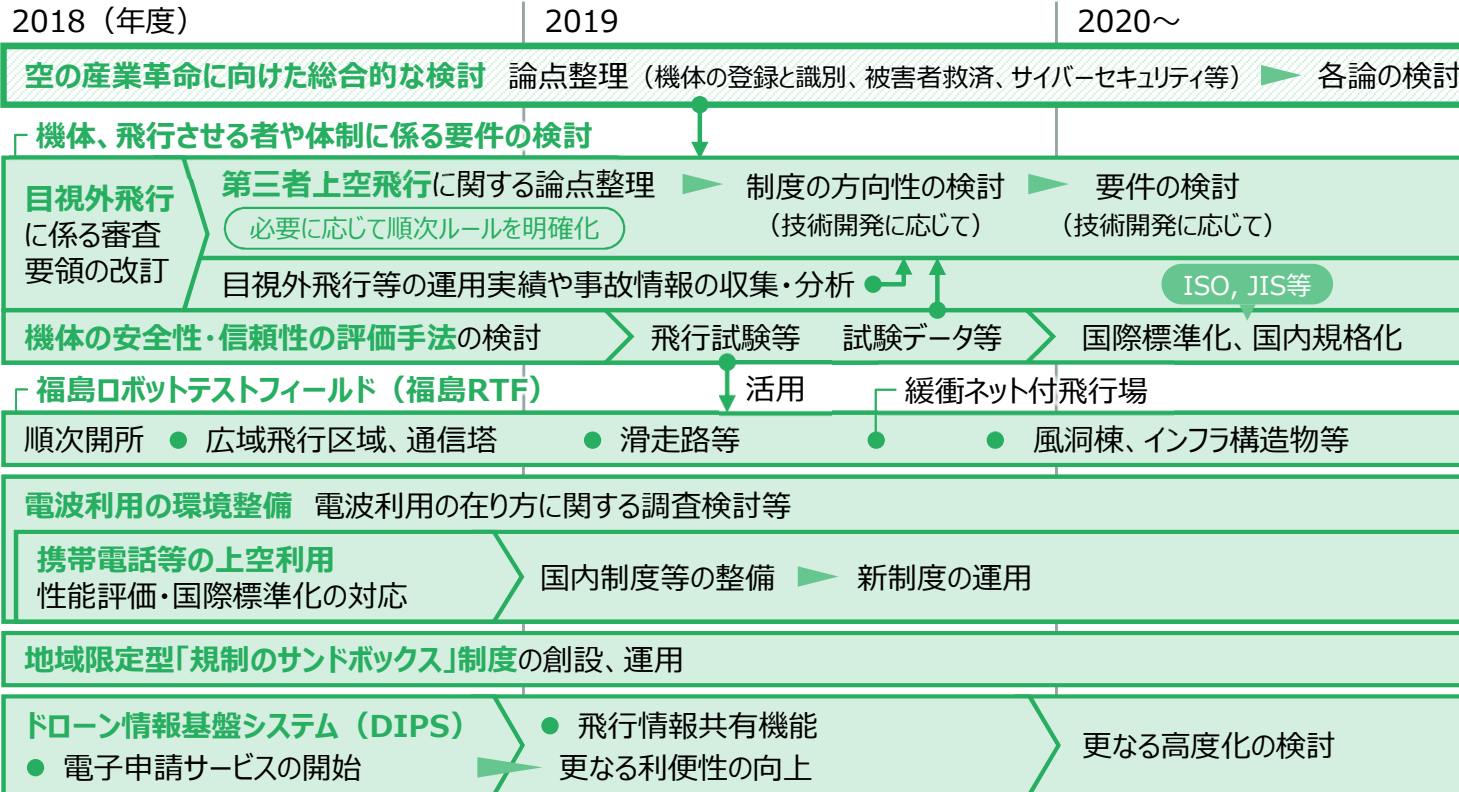
都市の物流、警備等

利活用

レベル3 無人地帯※での目視外飛行（補助者なし）※ 山、海水域、河川、森林等  
 レベル1～2 目視内飛行（1 操縦 2 自動・自律）▶ 更なる利活用の拡大

レベル4 有人地帯での目視外飛行 ▶ 高いレベルへ  
 （第三者上空）（機体重量、人口密度等）

環境整備



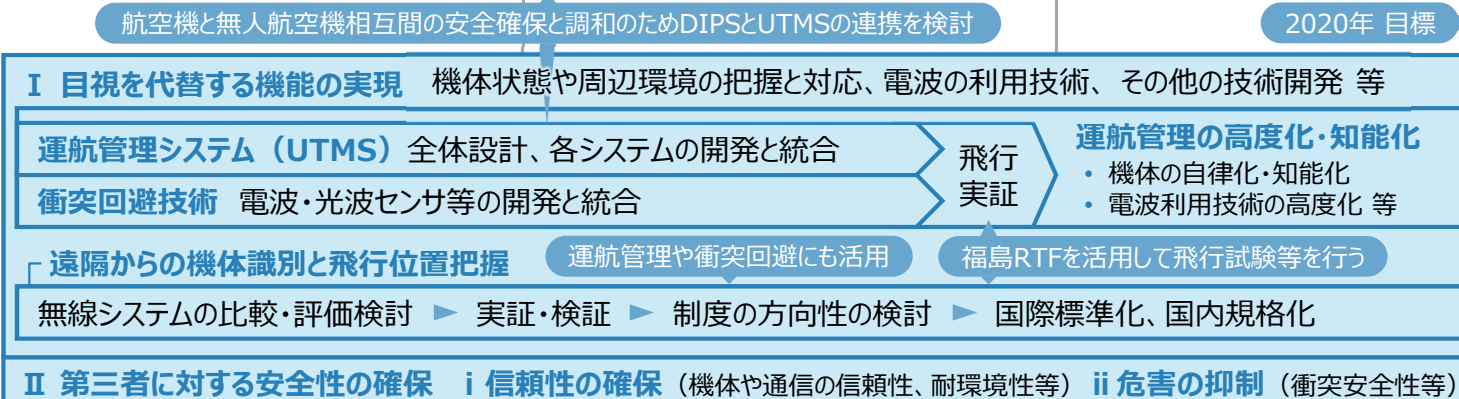
レベル4の要件や基準の明確化  
 通信や実験等に係る環境整備

ドローンが飛行する  
 2020年代の空の在り方  
 必要な技術や制度等

ドローンの安全・安心な  
 利活用のための環境整備

- 第三者上空飛行等に係る審査要領の改訂
- 機体の安全性・信頼性の認証、識別、登録に係る制度
- 操縦者や運航管理者の資格制度
- 事故の義務報告制度、被害者救済ルール
- 運航管理に関するルール

技術開発



レベル4が許容される  
 安全性・信頼性

高い安全性と利便性の  
 空の運航管理

- UTMSの本格的な社会実装
- 航空機、無人航空機相互間の安全確保と調和
- 国際標準との整合

高い安全性と信頼性の機体

- 落ちない・落ちて安全
- 高度な自律飛行

※ 各項目の詳細やその他の事項については補足資料（別紙）に記載する。

個別分野

